

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2012.8 August vol.22

震災を乗り越え 復興に向かう人々

5月23日から25日の三日間、民
主市民クラブで、岩手、宮城県に
出掛け、震災の復興状況、ガレキ
の処理状況、女川原発の被災状況
などを調査しました。

本格的な復興はこれから

最初に向かった陸前高田市
は津波で三千戸が全壊し、約二
千人の尊い命が奪われました。
市役所も外壁は残っています
が、中は流され、今は仮庁舎で業
務しています。私たちは、市議
会で、震災の状況、復興計画など
について伺いました。

市役所の職員も囁託職員を
含め110人が亡くなられ、
今は他の自治体から51人の派遣
職員の協力を得て復興に取り
組んでいることを、自身も県か
らの派遣でできているという松
田浩晃議会議務局長補佐から
聞きました。

千田勝治市議会副議長も被災
のこと、そして今復興に向けて
取り組んでいることを力強い決
意をこめて話されました。また、
15mの高さの防潮堤建設の話が
あるが、市民には異論があり、自
分はガレキで土手をつくり広葉
樹を植えたほうが良いと考えて
いると話されました。

このあと、一年前のボラン
ティア活動でテント設置地の提
供など大変お世話になった岡田
二郎さんのお宅に伺いました。
岡田さんご夫婦、それに近所の

人も集まり歓迎してくださいま
した。千田副議長さんも来られ
当時の話やその後の話を聞きま
したが、お元気で暮らしてい
るようで安心しました。当時避難し
ていた若いご夫婦は娘さん一家
だったそうで、今は遠野市で元
気に暮らしていらっしゃるのこ
とでした。

庭でお話を聞きましたが、家
の周りはみどり豊かで、震災の
ことがうそのような感じでした。
しかし、よく見ると、まだ津
波が押し寄せたりのご畑は空
いたままです。田んぼも耕作
されていません。これから土の
入れ替えがあるということであ
りました。一年経っても、復興はな
かなか進んでいない状況です。

震災を教訓に備え

その後、気仙沼へ移動し、当日
の宿となる若芽の宿でお世話

になることにしました。こは
ボランティアの宿として、一人
暮らしの当主が、被災した自宅
を改修後、ボランティアの皆さ
んに宿として提供しています。

夜に、当主と親戚の人や近所
の人たちと懇談しました。一般
の人たちが撮影した被災時の
ビデオを見ながら、当時の津波
の力がいかに凄かったか、そし
て津波の去った後の惨状を聞
きました。周りの住宅も改修し
て住んでいる所もあれば、その
ままになっているところ、建物
を撤去して空き地となっている
ところなど、まだまだ震災の
爪跡が残っている状況です。近
くの小学校も廃校となり、校庭
には壊れた車が山積みになっ
ていました。

2日目は、津波と避難先の寒
さで入所者が犠牲となった介
護老人保健施設「リバーサイド

春園」を訪ねました。今は5
月に開所した仮設の施設で事
業を行っています。仮設とい
ってもほとんど本来の施設
に近い設備です。仮設には助成
がなく、本設の手続きなどは進
まず、すでに設計図はできてい
ますが着工に至っていません。
施設長の猪田代盛光さんは、
個々の施設の備えだけでは難
しい今回の被災を教訓に、官民
の連携と避難場所の確保、避難
所での対応など、あらゆること
を想定した備えが必要と話さ
れました。

続いて、雇用を通じた気仙沼
の復興事業に取り組む一般社団
法人「気仙沼復興協会」へ行き、
市議会議員の守屋守武さんから
被災状況や復興に向けての取り
組みについてお話を伺いまし
ました。法人を立ち上げ、市の委託を
受け清掃、写真救済、福祉、ボラ
ンティアの受け入れなどによる
復興事業に取り組んでいます。

途方もないガレキの山

次に石巻市へ移動し、震災ガ
レキ処理について調査しまし
ました。石巻市役所の災害廃棄物対
策課の阿部主幹に現地を視察
しながら、話を聞きました。
災害廃棄物の発生量は推計で



積み上げられたガレキの山の前面

616万3千t、それまでの石
巻市のごみ処理量の106年分
にあたる量の廃棄物が発生して
います。ただし、このうち海に流
れ出しているものもあり、陸上
にあるガレキは450万tくら
いではないかということです。

現在仮設の焼却炉5基を建設し
ており、そのうちの1基が稼働
していました。すべてが動くこ
と1日1500tのガレキを処理
することができそうです。しかし、フ
ル稼働しても8年ばかり、25
年度末までにはガレキを処理し復
興を進めたい地元の思いからす
ると時間を要するものです。

ガレキ処理のために現地に
焼却場を設置できるほどの広
大な土地を確保することは容
易ではありません。少しでも早
くガレキ処理ができるよう支
援が必要です。

震災を忘れることなく

翌日は、女川原発に行き、今
回の震災の影響について調査
を行いました。

ここは地盤が海面より高く
地震で1m沈下した、13.8m
の敷地に対し、13mの津波が押
し寄せてきましたが、かろうじ
で津波の被害は受けることは
ありませんでした。先人の教え
を建設時に生かすコスト的に



ガレキを処理する仮設の焼却炉

はかさむにも関わらずかさ上
げされていました。

ただ、地震による外部電源の
停止がありました。5電源の
うちの1つが確保されたため、
安全に原子炉の停止、冷温状態
が保たれました。

女川原発は、牡鹿半島にあり、
現地に行くまでの海岸沿いの集
落はほとんどが壊滅状態です。
そのため、震災時には原発が
避難所となり、最多364人を
受け入れ、備蓄していた毛布や
食料を提供したそうです。

対応して下さった渡部所長
は、「原子力は扱い方を間違えは
大きな事故になる、今回の震災
の被災フロントとして事実を伝
え、情報共有し原発にかかわる
者が切磋琢磨して安全を守るこ
とに努める」ということを述べ
られました。ご自身も福島原発
事故の被災地である南相馬市に
家があり、帰ることができな
い状況にあります。

今回、被災地をめぐる、復興
に向けて努力されている皆さ
んの声を聞きました。しかし、
復興への課題は多く、一つ一つ
解決しながら進んでいくには
多くの時間と支援が必要です。
私たちは、震災のことを忘れる
ことなく自分たちのこととし
て、取組みを続けていきます。



岡田さん宅で被災の話や写真と津波で陸上に押し上げられた船写真真中気仙沼復興協会と守屋市議会議員から話を聞く写真下



発行者 角 智子 〒690-0064 島根県松江市天神町132
 TEL.(0852) 28-8880 FAX.(0852) 28-8881
 E-mail sumi@tomachan.net
 U R L http://www.tomachan.net/

とまちゃん通信

六月議会報告

6月定例会議があり、今回も一問一答方式で質問しました。以下報告します。

放課後児童クラブ

放課後児童対策として取り組まれる児童クラブや子ども教室は、子どもの放課後における適切な遊び場であり生活の場です。それは親が安心して就労できるための施設ではなく、子どもが遊びや生活を通して健康やかに成長・発達することを質的に保障していく場でもあります。

子どもが安心して豊かな放課後を過ごす居場所をつくるためにも、児童クラブなどの質の確保が必要です。この児童クラブを中心に放課後児童対策の充実について質問しました。
今後の質の確保と人材の確保を進めるために、専門的知識や経験を有する指導員の処遇の改善を図られる考えはないのか。
健康福祉部長 今、国では、子ども子育て新システムの中で指導員の処遇改善も検討されており、国の動向を注視していきたい。

現場の声を聞く機会を持ち、改善に向けての取り組みが必要だと感じるが、どのように取り組んでいるのか。

健康福祉部長 放課後児童クラブの指導員や利用をしている保護者の意見などの把握に努め、改善すべき点があれば、対応していきたい。

県として、今後、ますます増えていく放課後児童の対策について考え取り組んでいくのか。

知事 いろいろな方々の意見をよく聞き、国の動きもよく注視して、県の後世を担う子どもたちが健全に育つように、必要な対策を考えていきたい。

バリアフリーの取り組み

平成10年に人にやさしいまちづくり条例を制定し、まちづくり審議会を設置しましたが、この審議会で審議されたのは、この14年間でたったの3回です。審



一問一答方式で児童クラブなどについて質問

議会が機能していません。

障害のある人たちは社会参加をしていく中で様々な場にある障壁の除去、バリアフリーを求めています。まだまだその取り組みは十分ではありません。そこで、バリアフリーの取り組みについて県の考え、取り組みを質問しました。

福祉マップの改善に取り組む考えはないか。

健康福祉部長 今年度、NPO法人と一緒に使って使いやすいものについて検証する。この結果を踏まえて改善点を研究したい。

観光バリアフリーの取り組み

を強化して進められるべきと考えるが、いかがお考えか。

商工労働部長 県のホームページの観光ナビにリンクをさせる形で

行ってきた。さらに内容を充実させ、今、最新の情報を調査している。7月上旬には、まず神話博の会場の出雲市分を掲載し、来年の1月末までには全県の情報を掲載したい。

県のホームページにリンクする市町村や一般の団体なども取り組みを進めるべきだと考えるが、このWEBアクセシビリティの向上に向け、県としてどのように取り組むのか。

政策企画局長 今年度、NPO法人との共同事業として取り組み、使いやすいホームページを作成できる技術者を養成する研修、県及び市町村のホームページの使いやすさの検証、また検証結果を題材としたセミナーなどを実施する。

自治体が率先してだけれども利用しやすいホームページの作成に努め、民間企業でも対応が進むよう期待する。

バリアフリーの取り組みを今後とも着実に、そして迅速に進めていくために、県民との意見交換の場をしっかりとって、責任あるバリアフリーの体制づくりが必要だと考えるが、いかがか。

知事 バリアフリーには、ハード、ソフトの整備と人々の理解が大事で、全部、県庁の各部署に関係している。各界の意見を我々が積極的に聞くことが大事。審議会も、市町村の担当の意見、NPOの方々、いろいろな情報があり、関係部局が、積極的に意見を聞き、それを行政に反映するように努力していきたい。

子どもたちを育む教育

5月30日、松江市内で行われた文教厚生委員会の実地調査に参加しました。

最初に訪れたのは、東出雲町の揖屋小学校で、学校図書館教育について調査を行いました。ここでは6年前から司書教諭と司書が中心となって図書館教育に取り組む、児童の思考力や判断力に変化が出てきています。

この日は、担任と司書教諭、学校司書が一緒になって授業に取組み、安東みきえ著「マチンバー」を教材に行われた授業風景を視察しました。

子どもたちはあらかじめ出されていた課題にグループで話し合い、担当を決めて発表します。グループでの話し合いや発表にも、皆積極的に取り組んでいました。また、子どもたちは、視察に来た国會議員に時には鋭い質問を浴びせることもあるとか、これも図書館教育で自分の知りたいことを自ら調べることに身についてきている成果でしょう。



揖屋小学校での図書館教育の授業風景



松江養護学校高等部乃木校舎の実習用レストラン

次に、松江養護学校高等部乃木校舎へ出かけ、作業学習について調査しました。松江養護学校では、年々生徒が増え、校舎が手狭になってきたため、今年度から松江高等技術高跡地にプレハブ校舎を新設し、作業学習の場として3年生が学んでいます。

ここで生徒は地域との交流をしながら、洗車や清掃作業、コンビニ商品や本校で作った製品、昼食の販売などサービスマスの実習の総仕上げとして学習します。視察した我々職員もコンビニで実際に商品を購入したり、生徒のサービスを体験しながら食堂で昼食をいただいたりしました。こうした実習を経て、地域で働く子どもたちが増えていくことでしょう。

お知らせ

十分な報告ができませんでしたが、お声掛け頂ければ、皆さんのところに参ります。また、ブログやフェイスブックなどで逐次報告していきますので、ご覧ください。

なお、次回定例会は、9月13日(木)から10月12日(金)までの予定です。
【問合せ先】TEL 28-8880